



【2016. 7. 11】

・①は赤テープの左が網戸(1.2mm)を敷いたエリアです。イタドリの草高が抑制され芝も適度な草丈になっています。右は網を敷いていないエリアです。イタドリはもちろんですが芝の草丈もかなり伸びているのが分かります。網を敷くことで除草作業が不要になったり除草回数を減らせる可能性が出てきました。

・②は1mmのジオネットを敷いたエリアに発芽したイタドリです。イタドリの芽は直径が0.5mm程度のものもありますが一連の観察で分かっています。このことから、ジオネットで発芽を阻止することはできませんが、その後の成長をどう抑制するかがこの実験のテーマになります。



・③～⑦は1.2mmジオネットのエリアのもので、すべてのイタドリは虫に食われていました。⑧は実験場近くで除草後に再び発芽したイタドリですが、青々として虫を寄せ付けていないのが分かります。イタドリだけでなく多くの植物は「アレロパシー」というホルモンを分泌して、虫や他の植物を排除しようとします。イタドリが繁茂する周辺の草が枯れて裸地化するのこれが原因ですが、ジオネットが「アレロパシー」の分泌を阻止したためにバリアを張ることができなくなり、虫がつきやすくなったものと推測しています。



・ジオネットがイタドリの生態にダメージを与え、成長を抑制することがこの実験で証明されたと思います。さらに、芝の成長もコントロールでき、適度な草丈をキープすることが分かりました。今後は芝の草丈も観察していきたいと思っています。

・セイタカアワダチソウやクズ、バクサ、ヨモギなども、イタドリと同様に地中から養分を吸い上げて成長するので、この方法で成長抑制は可能ではないかと考えています。